

## 資料4-1

# 下水道技術開発会議の今年度の取組方針(案)

# 令和8年度 下水道技術開発会議の検討課題

## ◆ 活動の柱①「技術ニーズの把握と発信」(P.3)

- ・各種会議(本省、地方)の議題調査
- ・課題解決技術支援ツール(試行版)の改良・更新、生成AIの活用による利便性向上策の検討

## ◆ 活動の柱②「技術シーズの把握と発信」(P.4)

- ・技術シーズ調査として、AB-Cross等のテーマ等の募集
- ・上下水道科学研究費補助金の研究提案公募
- ・必要に応じ、ロードマップの改定や技術シーズ調査を実施

## ◆ 活動の柱③「ニーズとシーズの架け橋」(P.5)

- ・課題解決技術支援ツール(試行版)の改良・更新【再掲】
- ・情報提供や意見交換を通じた新技術導入促進
- ・新技術の導入促進に向けた課題解決策の検討・整理

## ◆ 活動の柱④「国などの技術情報の共有」(P.6)

- ・B-DASH, AB-Cross等の各技術の情報発信(普及展開状況調査、技術情報資料の作成・更新)
- ・エネルギー分科会においてカーボンニュートラル実現に関する検討を実施

## ◆ 活動の柱⑤「地方の技術開発・技術導入の支援」(P.7)

- ・令和6年能登半島地震での被害や人口減少地域の特性を踏まえたAB-Crossでの技術開発(継続) 等

## ◆ 活動の柱⑥「技術開発の戦略・方針の提示」(P.7)

- ・ロードマップ改定の必要性の検討
- ・ロードマップ重点課題の検討
- ・上下水道政策の基本的なあり方検討会を踏まえ、技術開発会議における検討課題の拡充を検討

# 今年度の取組方針 その1

## ◆活動の柱①「技術ニーズの把握と発信」

### ○各種会議(本省・地方)の議題調査(技術的課題、技術情報等)

- ✓ 下水道主管課長会議
- ✓ 下水道技術開発連絡会議
- ✓ 大都市下水道計画研究会
- ✓ 下水道研究会議

等の提案議題を対象に情報収集を実施

### ○課題解決技術支援ツール(試行版)の改良・更新

- ✓ R8年度も文献調査等を行いデータの拡充、必要に応じて改良・更新を行う。
- ✓ 外部生成AIの活用による利便性向上方法を検討する。

# 今年度の取組方針 その2

## ◆活動の柱②「技術シーズの把握と発信」

### ○AB-Cross等の技術提案の募集(R9年度公募分)

#### ✓ AB-Cross(上下水道一体革新的技術実証)のテーマ等の募集(参考資料4)

##### ・技術の熟度に応じて以下の4段階の公募分類で技術テーマを募集

公募①-1: AB-Cross実規模実証テーマ(革新的技術)

⇒直ちに実規模で実証できる段階にあり、水道・下水道事業に新たな付加価値を創造するなどの革新性の高い技術

公募①-2: AB-Cross実規模実証テーマ(普及推進技術)

⇒有効技術であるものの、現状その普及展開が十分でないが、適用性の拡大、性能向上等の改善または普及展開上の技術課題解決によって、更なる普及展開が期待され、水道・下水道事業の効率化に資する技術

公募②: AB-Cross FS調査テーマ

⇒1~2年のFS調査実施後に、実規模実証へ移行可能な技術熟度で、導入効果などを含めた普及可能性の検討や技術性能の確認を行う段階にある技術

公募③: 中長期的な技術開発テーマ

⇒概ね5~6年以内に AB-Cross (FS 調査など) や他の研究開発事業(応用研究(下水道)、上下水道科学研究費補助金、NEDO事業等)により実用化研究の段階に到達することが見込まれる要素技術等が含まれるもの。

※応用研究(下水道)については、下水道技術開発会議エネルギー分科会における「速やかに取り組むべき技術開発項目」に係るもの

#### ✓ 公募①から③において特に提案を求める技術項目を提示

1. メンテナンスの高度化・メンテナビリティの向上につながる技術
2. 上下水道資源などを活用した資源・エネルギー安全保障の強化など、高度な水処理・汚泥処理につながる技術

# 今年度の取組方針 その3

## ◆活動の柱③「ニーズとシーズの架け橋」

### ○課題解決技術支援ツール(試行版)の改良・更新 【再掲】

- ✓ R8年度も文献調査等を行い、必要に応じて改良・更新を行う。
- ✓ 外部生成AIの活用による利便性向上方法を検討する。

### ○新技術の導入促進に向けた課題解決策の検討・整理

- ✓ 技術開発及び導入が進んだ事例調査(資料4-1)

### ○情報提供や意見交換を通じた新技術導入促進

- ✓ 下水道展におけるB-DASH技術等の新技術に関する情報提供  
(国交省ブース、各社B-DASH・AB-Cross技術展示等)
- ✓ 産・学・JS等との意見交換等を通じた新技術導入促進策の検討

## 今年度の取組方針 その4

### ◆活動の柱④「国などの技術情報の共有」

○下水道資源・エネルギー技術などの新技術の開発および導入促進(エネルギー分科会)(資料4-2)

- ✓ カーボンニュートラル実現に関する検討を実施

○B-DASH、AB-Cross等の各技術の情報発信

- ✓ B-DASH技術の普及展開状況調査
- ✓ B-DASHガイドライン説明会開催(下水道展'26東京 国交省ブース内)
- ✓ B-DASHガイドラインのフォローアップ
- ✓ B-DASH技術情報資料の作成・更新

B-DASH技術導入ガイドラインのポイント(適用施設規模、技術分野、適用範囲、導入効果及び導入時の留意点、導入事例等)をまとめた技術情報資料の更新

<https://www.nilim.go.jp/lab/ecg/bdash/bdash.htm>

## 今年度の取組方針 その5

### ◆活動の柱⑤「地方の技術開発・技術導入の支援」

○地方都市における技術開発及び技術導入を支援するための取組

- ✓ 管路マネジメントに関する共同研究に着手
- ✓ 令和6年能登半島地震での被害や人口減少地域の特性を踏まえたAB-Crossでの技術開発(継続) 等

### ◆活動の柱⑥「技術開発の戦略・方針の提示」

○ロードマップのフォローアップ

- ✓ ロードマップの改定の必要性の検討

○重点化して実施すべき技術開発テーマの提示

- ✓ ロードマップ重点課題の検討(資料6)

○上下水道政策の基本的なあり方検討会を踏まえ、技術開発会議における検討課題の拡充を検討